道東の自然

釧路赤十字病院
太田（おおた）　凌（りょう）

福岡県北九州市出身。産業医科大学卒。これまで福岡を出たことすらありませんでしたが、友人に誘われ釧路へ。北海道の人のやさしさに支えられながら、日々新しい環境での生活と研修を楽しんでいます。

初めまして。釧路赤十字病院で初期研修をしております太田と申します。福岡出身で、現在は釧路市で生活しています。同じタイミングで内科をローテートしていた釧路孝仁会記念病院の青山先生からバトンを受けました。このような機会をいただき、大変嬉しく思っております。

私は動物や自然を見るのが好きで、休日はよく外に出かけています。その中でも印象に残っている２つの体験について書こうと思います。

１つ目は、犬ぞりを体験したときのことです。現地に着くと、たくさんの犬たちが出迎えてくれました。子犬から引退した老犬まで30匹以上いて、それぞれ性格もばらばらです。中には服を引っ張ってくる元気な子もいれば、静かにこちらを見ている子もいて、見ているだけでも楽しい時間でした。

簡単な説明を受け、そりに乗る準備をします。ブレーキや体重移動のコツを教わるのですが、思っていた以上に自分で操作しなければならないことを知り、不安を抱えたままそりに乗り込みました。

いざ出発すると、想像以上のスピードで一気に引っ張られます。雪を蹴る音、犬たちの息遣い、顔に当たる冷たい風。そのすべてが一度に押し寄せてきて、思わず体に力が入りました。帯広の雄大な景色の中を駆け抜けていくそのひとときは、自分と犬たちだけがそこにいるような不思議な感覚があり、あのときの光景は今でも鮮明に思い浮かびます。

２つ目は、霧多布岬に野生のラッコを見に行ったときのことです。駐車場から岬の突先までは歩いて５分ほど。道中で出会ったおじさんが、お腹に貝を乗せてカチカチと叩くラッコの物まねをしながら、「おいしそうでさ、１つ分けてほしかったよ」と気さくに教えてくれました。わくわくしながら突先へ向かいましたが、風が強く、海鳥が飛び交うばかりでなかなか姿が見えません。帰ろうかと思ったそのとき、最後にもう一度と目を凝らすと、岩の上に２匹のラッコを見つけました。

のんびりと寝転がるようにして、だらだらと過ごしている様子でした。ラッコはカニやウニ、ホッキなどを自分で割って食べるそうで、なんともうらやましいかぎりです。一方で、殻を割る際に肋骨を骨折することがあるそうで、見た目の愛らしさとのギャップに思わず同情してしまいました。

思えば、北海道に来てからというもの、休日のたびに自然へ引き寄せられるようになりました。犬たちと雪原を駆け、岩の上でくつろぐラッコに見入る。そんなひとときが、慌ただしい日常の中でかけがえのない時間になっています。残りあと１年、この土地でしか出会えない景色をもっと見ておきたいと思っています。先生方もお忙しい日々をお過ごしかと思いますが、機会があればぜひ道東の自然に足を運んでみてください。